

バナドン茶番

バナドン

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

初代ウルクパ茶番の生みの親、バナナバナナドンキーが創る。新たなギャグ小説。

目次

復活 バナドン茶番	1
本格復活 バナドン茶番	4
暇しゆぎりゆー	6
バナドン茶番が始まるなんて10年速いんだよ！	9
題名なんていらねーよ	12
安定の題名なし	14
数ヶ月ぶりー	16
久しぶりぶり	18

復活 バナドン茶番

さくすいあ「おはこんばんにやちわ。バナドンでちゅ。」

ヨツシー「おはこんばんちわ！ヨツシーだよ！」

カムイ(♀)「お久しぶりですね。カムイです。」

クツパJr「クツパJrです。よろしくおねがいます。」

さくすいあ「M i v e r s e にあったバナドン茶番が遂に復活しまちゅ。」

デイデューコング「ちよつと待つて！バナドン茶番知ってる人なんているかなあ。」

さくすいあ「ウルクパ茶番のように適当にしまちゅ。つてデイデューいたのか。」

デイデュー「いたよお。」

クツパJr「こうして見ると懐かしいですねえ。」

カムイ(♀)「絵がないし、画像もないし、何か不思議な世界ですねえ。」

デイデュー「こうしてみると昔と変わらないn」

さくすいあ「何!?おいもう一回言ってみろ。さもなくてコロすぞ！」

デイデュー「はやく始めようよ！」

さくすいあ「いいからはやく言え。」

デイデュー「うくん…忘れてしまったよ。」

ヨツシー「昔と変わらないね。と言ったよ。」

さくすいあ「そうだ。昔と変わらないんだ！」

カムイ(♀)「別に良いでしょう…ウルクパ茶番ほど知名度はありませんか。」

さくすいあ「よくない！やっぱバナドン茶番やめた！」

カムイ(♀)「なんで？なんでやめるのですか!？」

さくすいあ「色々な物が変わったのに…僕らだけ変わらないからだ
: M i v e r s e が終了したし！うごメモが終了したし！ウルクパ茶番がまた復活し、クツパJrのキャラがすごく変わったのに！僕

らは何も変わらないんだ！ウル（割愛w）」

カムイ（♀）「バナドンさんは何が言いたかったんですかねえ。」

クツパJ r 「あっちの世界のボク、ネタにされて可哀想です…」

デイディーコング 「しかもコレはヤバい。キャラが4人しかいん
??? 「お待たせ！」

カムイ（♀）「コレは!?!」

クツパJ r 「コレ…ホントに出して大丈夫？」

デイディーコング 「OUTだよね…コレは。」

さくすいあ 「新たなメンバーを加えま쳤다。」

クツパJ r 『どうも クツパJ r です。』

カムイ（♀）「じゅにくんが二人?!」

クツパJ r 「アレは…」

デイディーコング 「ウルトラB o w s e r の方だな。コレはある意味やばい。著作権侵害だし。」

さくすいあ 「これからもよろしく。」

クツパJ r 『アザツス！ボク、一生懸命頑張りマッスルマッスル！
ハッスルハッスル！』

クツパJ r 「ホントだったのですか…冷静なキャラからギャグキャラへと豹変…」

カムイ（♀）「コレ、打ちきりとかにはならないのですか…?」

デイディーコング 「絶対打ちきりになるって…」

クツパJ r 「他の作者さんのキャラを勝手に使うなんて…酷いで
s」

さくすいあ 「J r が二人とかおもしろいから別に良いだろ。」

クツパJ r 『別に良いだろウエツ！』

クツパJ r 「いやコレ絶対ウルクパさんに怒られるって…。」

さくすいあ 「このストーリーをどう創ろうと…俺の勝手だ！」

クツパJ r 「コレでいいのですか？」

クツパJ r 『コレでいいのだ。』

さくすいあ 「コレからもよろしくおねがいしまーちゅ。」

ヨツシー 「僕の扱いがあああああああああああああああああああああ
あッ！」

つづきます。(※ウルクパのクツパJ rは、1話限りのゲストなの
でご安心を。)

本格復活 バナドン茶番

さくすいあ「暇。だるい！」

ボスパツクン「ハヤク。シヨ。ウ。」

さくすいあ「おまえは誰だ！」

ボスパツクン「オデ。ハ。ボシユ。パツキュン。ウルクパ。茶番。カラ。引ッ越シ。テキタ。」

さくすいあ「何かおかしなイメージがするな…って新メンバー?!」

さくすいあ「大変だあー！」

デイディー「またおかしな新メンバーが来たろ？」

クツパJr「ウルクパさんのボクはできるだけ見たくはありません。」

さくすいあ「今度は許可を取ってもらったんだあ。よし、新メンバー来い！」

ボスパツクン「オデ。ハ。ボシユ。パツキュン。ウルクパ茶番。カラ。来タ。」

デイディー「なんか凄いな…改めて見ると…」

カムイ(♀)「遅れてすm…ぎゃあああああああああッ！」

さくすいあ「驚いたか？コイツが新メンバーだ。」

カムイ(♀)「何ですか！すごく大きいですよ！」

さくすいあ「大きいってエロいの…？」

クツパJr「やめてください。」↑紳士アピール

ボスパツクン「ミナサン。ノ。ナマエ。ガ。知リタイ。デス。」

デイディー「オツス！オイラデイディ」

ボスパツクン「デイディー。サン。」

カムイ(♀)「私はカムイです。よろしくおねがいます。」

ボスパツクン「カムイ。サン。ヨロシク。オネガ。イシマス。」

カムイ(♀)「は…はい…」

ボスパックン「アト。ハ。クツ。パジュニ。ア。デスカ？」

クツパJr「そうですね。けど僕は君の故郷にいるクツパJrとは別物ですので、悪しからず。」

ボスパックン「ハイ。ワカリ。マシタ。テカ。アノ緑ハダレ？」

ヨッシー「ボクはヨッシーだよ！」

ボスパックン「コッシー？」

ヨッシー「ヨッシー！」

ボスパックン「ネッシー？」

ヨッシー「ヨッシーだって！」

ボスパックン「ムッシー？」

ヨッシーw「だからヨッシーだって言ってるだろ！」

ボスパックン「ой то би ж с шарйз в ч ф н я ц х е а в

х к

ヨッシー「え!!？」

さくすいあ「カラー…!!!他のユーザーさんのキャラの怒りを買ってどうするんだ…!!!」

ヨッシー「え？アレ、怒ったの？」

さくすいあ「当たり前だr」

ボスパックン「☆□▲◆○◎▽◎◎◎★●▲▼◆△☆□■▲□★◆」

ボカ！

ヨッシー「アワワワワワワワワワワ！」

キラ…！

カムイ(♀)「ヨッシーさん…」

クツパJr「M i v e r s eとは違っていじられるようになりましたね。ヨッシーさん。」

デイディー「さすが新入り…ヘッドバット最強じゃん…。」

続きます

暇しゆぎりゆー

さくすいあ「あああああああああああああああああああああ
！」

カムイ(♀)「いいいいいいいいいいいいいいいいいいいい
！」

ヨツシーw「うううううううううううううううううううううう
！」

デイディー「ええええええええええええええええええええええ
！」

ボスパツクン「おおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
!!!」

クツパJr「な、何してるのですか!？」

さくすいあ「暇だからあそんでたw」

ここからが本編です。

さくすいあ「暇ー。」

デイディー「だからってゴリアピしないで。」

さくすいあ「しょうがないでしょー。黄色いドンキーだから。」

デイディー「そう言う問題じゃないって」

カムイ(♀)「コレだと面白くありません。まだ300文字もありませんよ?」

さくすいあ「うるさいな。ウルクパ茶番よりはマシだろ。」

デイディー「ウルクパ茶番をしれつとテイスるな!お兄ちゃんだろ
！」

さくすいあ「テイスって良いでしょ。だって、好きな人ほどいじり
たくなるって聞いたことあるから。」

続きます

バナドン茶番が始まるなんて10年速いんだよ！

クツパJr「今度こそまともにやりましょうよー。ずっとふざけてばかりじゃおもしろくありません」

さくすいあ「だるいからしよーがねーじゃない。てか『ふざける』は『わざと』よりはマシだし。」

クツパJr「でも…」

さくすいあ「うるせーなー。テメー。いちいち細かいこと気にするなよ。」

クツパJr「いや、細かくあります」

さくすいあ「そんなにキレるとハゲるぞ?」

クツパJr「…：分かりましたよ。勝手にしてください。」

さくすいあ「分かった！ちんちん侍やるぞ！あと、ミスったら切腹な。」

ヨツシー、デイディー、ボスパツクン「おおー。」

デイディー「ちんちん！」

ボスパツクン「チンチン。」

さくすいあ「おちんちん！」

ヨツシー「びろくん！…：ちんちん！」

デイディー「侍！」

ボスパツクン「シャキーン。チン。チン侍。」

さくすいあ、デイディー「ちんちん侍！…!?!」

ボスパツクン「モツ。シー。言ワナ。カツタ。」

ヨツシー「紛らわしいから言えなかったんだよ！おまえら下ネタ言ってるクセに偉そうにするな！」

さくすいあ「ちんちんとは、江戸時代の鐘の音だよ。おまえ何妄想してんだよ…wそんな性格だと童貞卒業どころが彼女すらできないぞ?。」

デイディー「じゃあヨーシーは負けを認めるか?」

ヨツシー「分かったよ。」↑切腹されることをまだ知ってないw

さくすいあ「負けた奴以外ビール飲むか！」

ヨッシー「ちよつと！僕は!？」

さくすいあ「あんたは切腹だ。」

ザクリツ

ヨッシー「アワワワワワワワワワワ！」↑切腹されたw

さくすいあ「はく…うまかった…ヨッシーは死んじやつたし、今度
は三人でやるか。」

デイディー「ちんちん！」

さくすいあ「おちんちん！」

ボスパツクン「ビロくン！…チンチン。」

デイディー「び」

ボスパツクン「侍。」

デイディー「?!」

さくすいあ「ボスパツクン。遅れて言ったな？」

ボスパツクン「違う。デイディーサン。ガ。ハヤク。言ッテシマツ
タ。ノデ。」

デイディー「そうだったか…どうする?…さくすいあ」

さくすいあ「こんなお前ら二人とも切腹でいいだろ。」↑どうして
も勝りたいw

デイディー「良くないって！せめてどちらかにしろよ！」

ボスパツクン「ナラ。サクシヤサン。ガ。切腹。サレテ。」

さくすいあ「なんで僕なんだよ！デイディー切腹だろそこは！」

デイディー「なんでオイラなんだよ！マリカ8DXに呼ばれてない
んだぞ！そこはボスパツ」

ボスパツクン「オデモ。最近。プレイ。ヤー。ニナツテナ。イ。」

さくすいあ「あーもう！どうすれば良」

カムイ(♀)「……………!!!」

3人「?!」

カムイ(♀)「い…いい加減に……しなさああああああああああ
あああああいつ!!! (激流砲)」

3人「ぎやあああ!!!
あああああッ!!!」

!!!!!!!

クツパJr「ホント…コレは見てる人が不快になりますね…特にウルクパさんは。」

カムイ(♀)「ヨツシーさんをはじめとした4人さん。反省してください。」

4人「は、はい……………」

つづくw

題名なんていらねーよ

さくすいあ「暇。」

デイディー「コレ何回め？」

さくすいあ「325回目。」

デイディー「(しれっと数えるなよ…)」

さくすいあ「カム子ー」

カムイ(♀)「何です？」

さくすいあ「おまえいい加減彼氏とセックスしろよ。」

カムイ(♀)「……／／／／／」

クツパJr「また下ネタですか…。大丈夫ですよカムイさん。こう言うのは無視した方が良いですよ。」

カムイ(♀)「はい…。」

さくすいあ「おまえら付き合え」

クツパ「ジュニアはワガハイの物だ。」

さくすいあ「お前どこのクツパ?!」

クツパ「この世界n」

さくすいあ「知つとるわ！」

さくすいあはライターを使用したw

クツパ「ぐぬおおおッ
!!!」

クツパJr「パパ！」

ほねクツパ「大丈夫だジュニア。ほねになっただk」

クツパJr「怖いよおく!!!バカバカバカア〜!!!」↑叩いたw

ほねクツパ「ぬおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおッ!!!」

さくすいあ「反抗期かw」

デイディー「Jr.さん…。ついに壊れたか…。」

カムイ(♀)「(私もいつかマークスさんにやってみようかな…)」

ヨッシー「オイ!!!お前らあああああああッ!!!僕をまたハブつ

」

さくすいあ「今呼ぼうとしたんだよ!!!」↑ロケットランチャーで撃ったw

ヨッシーw「アワワワワワワワワワワワワワワワワ!!!」

ほねクツパ「グオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!」

ボスパツクン「☆▲□◇▽▼●▲◆☆◇◆★◇□☆◇▲□!!!」↑パツクンヘッドバット

ヨッシーw「アワワワワワワワワワワワワワワワワワ!!!」

ほねクツパ「グオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオオ!!!」

さくすいあ「あー尺が余った… こうなったら逮捕されて驚いた芸能人ランキングTOP10でもやるか…」

デイディー「(絶対アカン奴だ…:)」

さくすいあ「第10位は…:…:…:山g」

デイディー「コラー~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~ツツ!!!!!!」ソレ一番言っちゃいけないでしょ~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~!!!!!!」

さくすいあ「じゃあコレにしよう。逮捕されそうな芸能人ランキングTOP10でもやるか!!!第10位は…:ウr」

デイディー「だから!!!それをしてはいけn」

続く

さくすいあ「すみませんで済むなら警察はいらな」

カムイ(♀)「バナドンさんって、警察だったのですか？」

さくすいあ「ギャグよくギャグだつてば☆」

デイディー「(ギター…) 毎回安定のしようもないくんだり」

さくすいあ「あ!!?文句言つたな?!?コレでもウルクパ茶番よりはマシ

なんだよ!!!」

デイディー「ど、どうして!!?オイラ何も言つてな」

さくすいあ「やかましいわ!!!上に書いてるだろ!!!ギター… 毎回安

定のしようもないくんだり” って!!!」

デイディー「マジ!!?って本当だあー……………ツ!!!」

クツパJr「それ以前にまずウルクパさんに謝りなさいって…」

さくすいあ「すみまちなんでちたー……………ん!!!」

デイディー「反省してよ」

さくすいあ「お”ま”え”余計なこと”と”言つてんじゃね”え”よ

”コ”」

カムイ(♀)「すぐキレるのやめて!!!バナドンさん!!!」

さくすいあ「……………ゴメン。」

続く

クツパ Jr 『オ←フ→コ→ウ←ス←ッ!!!!』

クツパ Jr 「(また僕が二人… もうやめてよ… 絶対あつちのボクはやらかすから…)」

デイデュー 「オイラも分かるわ。キミの気持ちだ。」

さくすいあ 「行くぞおー!!!! ゴールデンボオー!!」
「!!!!」

クツパ Jr 『オウラアアアアアアアアッ!!!!』

フューー!」

デイデュー 「あ……」

そして…

さくすいあ 「どこ行つたんだ? オレのゴールデンボール…」

クツパ Jr 『ゴールデンボール!? もしかしてちん p (殴)』

カムイ 「やめなさい。」

さくすいあ 「まあ安心しろお。あと一つ残つてあるから大丈夫」

ヨツシー 「ちよつと!!! それ危n」

さくすいあ 「黙れえ!!!!」 ↑ ネタキャラが喋るなんて、

10年速いんだよお!!!!」 ↑ 筋肉ドライバーをした

ヨツシー w 「アワワワワワワワワワワ!!!!」

クツパ Jr 『あー!!! ボクもやるぞおー!!!!』 ↑ ファイナル屁

ラッシュ

ブウー!!!!」

ヨツシー w 「アワワワワワワワワワワ!!!!」

ボスパツクン 「ヤレ。ヤレ。ダナ。」

そして…

??????
「オイ!!!! 誰がオレ様にボールを当てたんだ!!!!」
続く…

久しぶりぶり

さくすいあ「あー、暇。」

デイディー「言うと思つてた。」

???「コラ待てー！ー！ー！誰がオレ様にボールを当てたん
だー！ー！ー！」

さくすいあ「あ、クルール！」

キングクルール「お前ふざけんなよ!!!オレ様にボール当てやがって
!!!」

さくすいあ「いつだつて?」

デイディー「ホラー、前回だよ。前回。」

さくすいあ「いや、アレはクツパJ rが」

クツパJ r w『ボクを呼んだ?』

さくすいあ「ウルクパのじゃねえよ!!!」

クツパJ r w『何ですよ。』↑退場された

キングクルール「作者としておまえが責任取れ!!!」

さくすいあ「ワニのクセに...」

キングクルール「ゴリラのお前に言われたくないわ!!!」

?????「ワニが図に乗るな!!!」

キングクルール「何だとお!!!」

さくすいあ「いや、僕じゃないって!!!今のは!!!」

キングクルール「ウソつけイ!!!」

ほねクツパ「ワ”ガ”ハ”イ”だ”あ”あ”あ”あ”あ”あ”
あ”ツ!!!」

キングクルール「クツパ!!!テメエふざけんなコラア!!!」

ほねクツパ「黙れ!!!それよりJ rはどこなのだ!!!J rとラブホ行き
たいのだあああああッ!!!」

さくすいあ「なんで同性同士で行くんだ...w w w」

ほねクツパ「黙れ!!!お前にJ rの何が分かるんだあああああああ
あッ!!!」

さくすいあ「いや、なんでそこまでJ rにこだわるの?w」

ほねクツパ「父親だからだ!!! Jrの好きなものや、Jrの嫌いなもの：Jrの裸やJrの秘密：全てワガハイだけが知っているのだ!!!」

キングクルール「親バカにもほどがあるだろ!!!」

ほねクツパ「息子を持つておらんお前に言われたくないのだあああああああッ!!!」

ヨツシー「まあまあ、みんな落ち着いてよ。」

キングクルール、ほねクツパ「!!?」

ヨツシー「僕なんか、Jrの弱みを握つてラブホへ行かしたことになるかr」

ガシッ!!!

ヨツシー「え?」

ほねクツパ「ワガハイのJrに何してくれるのだあああああああああああッ!!!」

ヨツシーw「ちよつと待つて!!!ちよつと待つて!!!冗談で言つたつもr」

ほねクツパ「黙れ!!! Jrにそんなハレンチなことをしたお前に制裁をくれてやるわあああああッ!!!」

さくすいあ「あんたも人のこと言えんだろ：www」

ほねクツパ「うるさいのだあああああッ!!!」

キングクルール「オレ様を無視するんじゃないやねえええええええええッ!!!」

ヨツシー「え?君いつからいt」

ほねクツパ、キングクルール「ネタキャラは黙つとれええええええええええええええええええええッ!!!」

ほねクツパ「ほねクツパプレス!!!」

キングクルール「ブラストマティック砲!!!」

ヨツシーw「アワワワワワワワワワワワワワワワワワワワワ!!!」

さくすいあ「お前もだあああああッ!!!」↑バナナパンチ
クツパJrw『なんでこうなんのおおおおッ!!!』↑
何もしてないのに悲惨な目に遭うw

デイディー「ゲストなのに扱いが酷いJr（ウルクパの）かわいそ
w」

クツパJr「おとーさーん。どうしたの？」

ほねクツパ「いやいや、何でもないので♥おとうさんと銭湯へ行く
のだ♥一緒に温まるのだ♥」

クツパJr「うん♪」

さくすいあ、デイディー「それでいいのかよ……」

キングクルール「チツ、今日は見逃してやるよ。尺の都合上もうこ
れ以上続くワケがないしな。」

続くw

カム子「遅刻しました。遅れてすみません……ってあれ？もう終わり
ました？そうですか……。次回もよろしくです。」

ボスパツクン「△××△×○△○○◇×◇△○×□□□↑ヨッ
!!!」

シーに八つ当たりw

ヨツシーw「アワワワワワワワワワワワワワワワ!!!」